佐渡市幼稚園、小・中学校の先生方へ

きょういく　さど

令和５年９月４日
第８９号
佐渡市教育委員会
学校教育課

自治的学級を目指しませんか

佐渡総合教育センター所長　本多　アヤ子

「なかなか学級の子どもたちが落ち着かない」「子ども同士のトラブルが絶えない」などの悩みをお持ちの先生はいませんか。

当センターでは、今年度「学級力向上研修」を年２回実施します。１回目の６月の研修では愛知教育大学教育大学院の磯部征尊先生から自治的学級（支持的風土のある学級）を育むポイントをご指導いただきました。すぐに取り組めることとして、①学級目標を意識した声掛け、②「前と比べる」取り組みの見える化を挙げ、子ども自身に何が出来て、何が足りないかを振り返らせることにより自己調整力の育成向上につながることを教えていただきました。そして、自治力の向上には、「自分への尊重」→「他者や周りへの尊重・敬愛」→「自己肯定感の向上」と段階があり、段階に沿った指導が有効なことを学びました。研修会に参加した先生方から次のような感想をいただきました。

〇学級経営というと、どのような学級を目指せばよいのか、自分にも迷いがあったが、今日の講演を聞いて、目的が明確になった。
〇学級力アンケート、明日から取り組んでいきたいと思う。先生が作るのではなく、子どもが作る学級を目指していきたい。
〇過去最高レベルの研修だった。今回のように一部の人だけでなく、市中教研など全職員が聞いて、理解して、各校でチャレンジすることが市全体の教育レベルアップにつながると思う。

自治的学級作りに向けての研修会は、２学期に八幡小学校を会場に、授業を通しての研修会を行う予定です。ぜひ一緒に自治的学級作りに取り組みませんか。

主体的・対話的で深い学びのある校内研修

下越教育事務所　指導主事　平野　徹

最近「子どもの学びと大人の学びは相似形」というフレーズをよく耳にします。中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会では、審議まとめ（令和3年11月15日）において、「教師は学び続ける存在であることが強く期待されている」「時代の変化が大きくなる中で常に学び続けていくことが必要」「主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデル」と述べています。今、われわれ教師にこそ個別最適な学び・協働的な学びの充実が求められているとも言えます。

今年度の１学期は、複数の学校から、校内研修をスタートさせるにあたりその方向性や内容を共に考えたいとのリクエストを受け、学校要請型のプロジェクト訪問に、のべ10回ほど伺いました。いずれの学校も、これまでの研究の進め方にとらわれることなく、今、自校の先生方に必要な学びは何かを追求している点で共通しています。その答えはすぐには見つからず、絶えず悩みながら、迷いながらの道のりですが、同じ悩みをもつ研究主任同士がつながり、互いの取組から学び合うなど新たな動きも生まれています。そのなかで、従来の指導案検討のあり方を見直し、授業をつくるプロセスそのものを協働的に学んでいくという新たな「授業づくりワークショップ」に取り組む学校が増えてきました。（ご連絡いただければ情報提供させていただきます。）その現場には、教師がともに子どもの思考や反応を考え合い、展開の可能性について気付きを共有し、応え合うという知的に楽しい空間が広がっていました。

これらの学校の研修に参加して思うことは、今教師の学びに大切なのは、教師同士の対話だということです。初めから結論ありきの研究ではなく目指す子どもの姿を丁寧に共有し、試行錯誤しながら協働的に授業をつくり、子どもの姿から自らの授業を振り返るという学びです。校内研修が本格的に動く２学期を迎えました。各校で実りある教師の学びが実現することを願っています。

オープンスクールに学ぶ

教育指導主事　庄山　佳代子

仕事柄、島内の保育園・幼稚園・こども園を訪問させていただいています。遊び・制作など、それぞれの園で工夫を凝らし、支援が必要な園児への配慮がなされています。保育士さんたちは、穏やかに、タイミングを見計らって園児が集団行動に入れるよう促しています。

県立佐渡特別支援学校のオープンスクールは必ず参加させてもらっています。今年度のオープンスクールではちょっとした変化が見られました。各学年部の活動を参観させてもらっている時、中学部・高等部の教室で生徒たちが説明をしてくれたのです。あらかじめ先生と相談し説明の内容や役割を決めたとのことでした。はっきりとした口調で話をしてくれた生徒の姿と説明をする生徒を見守る先生方の優しいまなざし、どちらも印象的でした。

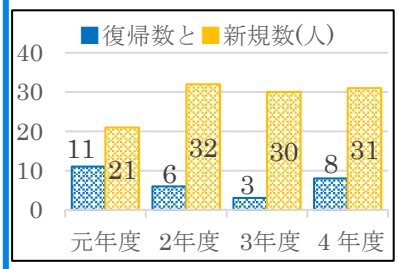
説明をする生徒の真正面では校長先生が笑顔で見守っていました。うなずきながら説明を聞き、生徒の努力を認めていました。生徒はやる気を発揮して一生懸命に説明していました。先生と生徒の心の交流を感じ、私までうれしくなりました。

児童生徒の行動は、かかわっている大人との関係が大きく影響してきます。特性を理解し、励ましてくれたり話を聞いてくれたりする関係は、障がいのあるなしに関わらず児童生徒の成長に不可欠です。笑顔で児童生徒を認め交流するという、一見当たり前のことが尊いということを改めて教えられた出来事でした。

多面的な児童生徒理解を！

教育指導主事　名古屋　瑞穂

文科省の調査で令和４年度、佐渡市の小中学校の不登校の児童生徒は79名でした。令和３年度から11名増加しました。令和３年度の全国が24万人を超えている状況で、千人当たりの不登校児童生徒数は、小学校が全国と同等、中学校は、全国・県より低い数値になったことは、各学校のご努力の成果であると感謝しています。今後、全国の令和４年度の結果については、10月下旬頃に発表されると思われますが、近年の傾向から見るとさらなる増加が予想されます。佐渡市では、全国に比して不登校の割合が低い状況を目指しています。そこで各学校が取組をすすめるとしたらどのようにしたら良いのでしょうか。文科省が示している生徒指導提要では、生徒指導を発達支持的、課題予防的、困難課題対応的に分けて対策を考えています。左のグラフからも分かるように、不登校になると復帰することは、容易ではありません。休み始めてからでは、対応が遅いのです。多面的な児童生徒理解をすすめて、不適応の兆候を早期に把握して、適切なアセスメントを行い、本人や保護者と積極的に教育相談をすすめてください。休み始めたら、適応指導教室や訪問指導員の活用を検討して、ＳＣや心の教室相談員、教職員等の教育相談体制をつくりましょう。



授業支援ソフト・AIドリルの「ミライシード」導入

２学期より授業等で使用できる支援ソフト「ミライシード」が各校に導入されます。「ミライシード」には以下のような機能があります。

○「ドリルパーク」・・・AIによる個別最適化されたドリル教材

○「オクリンク」・・・直感的な操作で表現から発表までをワンストップで出来るプレゼンテーションツール

○「ムーブノート」・・・クラス全員でテーマに沿った意見交流が出来るコミュニケーションツール

※他にも様々な機能があります。積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しましょう

9月～使用可能です。各校に送付されたIDでログイン後、「管理者マニュアル」に各種使い方のヘルプリンクがありますので活用してください